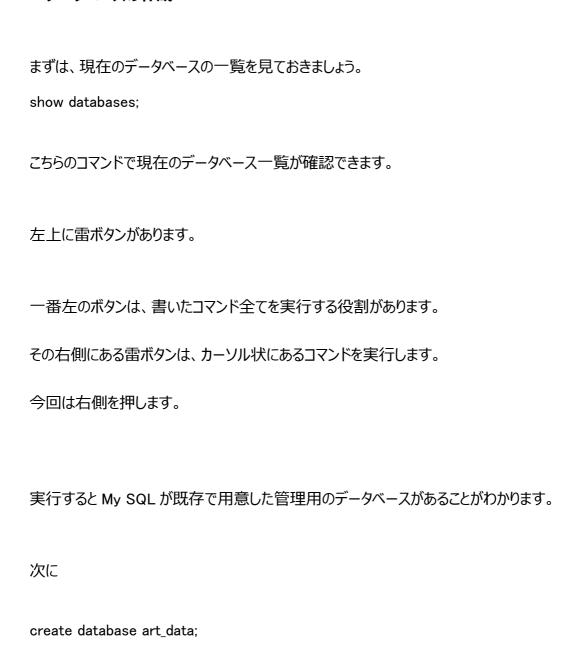
#### セクション 3 - ハンズオンスクリプト

#### ■データベースの作成



とコマンドを打ってもらいでデータベースを作ってみます。

この際に、大文字でも問題なく実行できますが、注意が必要です。 プロジェクト内のルールを決めてそれを遵守することをお勧めします。

それでは実行してみます。

正常に実行できたことを確認して、

再び、

show databases;

コマンドで見てみると、先ほど追加した

art\_data が追加されていることがわかります。

## ■テーブルの追加

カラムは以下の

id,

name,

category

の三つとしておきましょう。

### 【補足】よく利用するオプションについて

- ・NULL を禁止する場合、オプション部分に「not null」を利用します。
- ・自動採番する場合、「auto\_increment」を利用します。
- ・キー(主キー、プライマリキー)を設定する場合、オプション部分に「primary key」を追記します。

それでは実際に動かしていきましょう。

まずは Use コマンドを使って、データベースを指定します。

show tables:

で現在のテーブル一覧を確認してみましょう。

まだ何もテーブルがありません。

それではテーブルを作成していきます。作家情報を管理する artist テーブルを作成してみます。

下記のコマンドを入力します。

CREATE TABLE artist(id int not null auto\_increment primary key, name varchar(255) not null, category varchar(255))

id は int 型

オプションには、nullの入力を許容しない、「not null」オプションを。

さらに、自動採番をするように、「auto\_increment」を利用します。

そして最後に、主キーを表す「primary key」を記載します。

次に、name を。

同様に「not null」オプションを利用します。

最後に、カテゴリ名。これは、ルネサンスや現代アートなどの絵画のジャンルが入るカラムです。

構文通り記載して実行してみましょう。

実行できました。

show tables:

で現在のテーブル一覧を確認してみましょう。

すると先ほど作ったテーブルが作成されていることを確認できます

# ■テーブルの削除

まず現在のテーブル一覧を確認しておきましょう。
show tables;
実行します
artist table が存在していることが確認できます。
確認できたところで、先ほどの構文を打って実行してみましょう。
drop table artist;
エラーなく実行できました。テーブル一覧を確認します
show tables;
artist テーブルが削除されていることが確認できました。
このレクチャーでは、テーブルの削除について学びました。

# ■データベースの削除

まずは、現在のデータベースの一覧を見ておきましょう。
show databases;
現在のデータベース一覧が確認できます。
すると、art_data というデータベースがあることを確認できます。
ここから、
drop database art_data;
のコマンドでデータベースを削除していきます。
それでは実行してみます。
正常に実行できたことを確認して、
再び、
show databases;
コマンドで見てみると、

art\_data が削除されていることがわかります。